

2023年度

ITエンジニア科4年制
講義計画集

— 第2学年 —

氏名

.....
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051
.....

2023年度 (令和5年度) 年間計画表 学生用

2023/3/16 現在

前期												後期																										
4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月					
1 土	休館日		1 月	月4回		1 木	木8回		1 土	休館日		1 火			1 金	教育指針説明会 J検B検CBT一般		1 日	休館日		1 水	水7回		1 金	金11回 忘年会		1 月	元日		1 木	木16回		1 金	学内合同企業説明会				
2 日			2 火	木曜振替4回		2 金	金7回		2 日	ジョブパス		2 水	オープンキャンパス③		2 土	学校見学会		2 月	月3回		2 木	木8回 ひろえば船橋		2 土			2 火			2 日	後期試験		2 金	金16回		2 土	学校見学会	
3 月	始業式 ガイダンス		3 水	憲法記念日 学校見学会(保護者)		3 土	学校見学会		3 月	月13回		3 木	成績点票締切 仕事の学び場(C①)		3 日			3 火	火4回		3 金	文化の日		3 日	ジョブパス		3 水			3 土	学校見学会		3 日					
4 火			4 木	みどりの日		4 日			4 火	火12回		4 金	仕事の学び場(GJF)① 仕事の学び場(C②)		4 月	職員旅行		4 水	水4回		4 土			4 月	月11回		4 木			4 日			4 月					
5 水	新入生 オリエンテーション		5 金	こどもの日		5 月	月9回		5 水	水12回		5 土	24卒就職G(保護者)		5 火			5 木	木4回		5 日			5 火	火12回		5 金			5 月	月16回		5 火					
6 木			6 土	休館日		6 火	火8回		6 木	木12回		6 日			6 水	↑ F J B ↓ 合同 入宿		6 金	金4回		6 月	月7回		6 水	水12回		6 土			6 火	火16回		6 水	卒業判定会議				
7 金	入学式		7 日			7 水	水8回		7 金	金12回		7 月	仕事の学び場(UNW)②		7 土	U・J・W・C入試日		7 火	火8回		7 木	木12回		7 日			7 水	追試		7 木	卒業生登校日							
8 土	休館日		8 月	月5回		8 木	木9回		8 土	オープンキャンパス②		8 火	学校見学会		8 金			8 日	国家試験		8 水	水8回		8 金	金12回		8 月	成人の日		8 木			8 金	卒業式				
9 日			9 火	火4回		9 金	金8回 駅前C		9 日			9 水			9 土	学校見学会(保護者)		9 月	スポーツの日 G・N・F入試日		9 木	木9回		9 土	学校見学会		9 火	新年の会		9 金	成績点票締切		9 土					
10 月	前期スタート 月1回		10 水	水4回		10 土	休館日		10 月	月14回		10 木			10 日			10 火	火5回		10 金	金8回		10 日			10 水	水13回		10 土	学校見学会(保護者)		10 日					
11 火	火1回		11 木	木5回		11 日	科目A免除試験		11 火	火13回 試験問題原稿提出		11 金	↑ 山の日		11 月	後期スタート 月1回		11 水	水5回		11 土	学校見学会		11 月	月12回		11 木	木13回		11 日	建国記念日		11 月					
12 水	水1回		12 金	金4回 J検B検CBT一般		12 月	月10回		12 水	水13回		12 土			12 火	火1回		12 木	木5回		12 日	色彩検定		12 火	25卒就職G SPI模試		12 金	金13回 J検B検CBT一般		12 月	振替休日		12 火					
13 木	木1回		13 土	休館日		13 火	火9回		13 木	木13回		13 日	↓ 受 付 業 務 停 止		13 水	水1回		13 金	金5回		13 月	月8回		13 水	25卒就職G メイク&写真撮影 就職個人面談 (UGJNF科)		13 土	学校見学会		13 火	卒研プレ発表会		13 水					
14 金	金1回		14 日			14 水	水9回		14 金	金13回		14 月			14 木	木1回		14 土			14 火	火9回		14 木	就職個人面談 (UGJNF科)		14 日			14 水	卒業研究発表会		14 木	進級判定会議 U科第3期入試				
15 土	学校見学会		15 月	月6回		15 木	県民の日 オープンキャンパス①		15 土	学校見学会(保護者)		15 火	務 停 止		15 金	金1回		15 日			15 水	水9回		15 金	就職個人面談 (UGJNF科)		15 月	月13回		15 木	25卒就職G 一般常識模試		15 金					
16 日	国家試験		16 火	火5回		16 金	金9回 J検B検CBT一般		16 日			16 水			16 土	オープンキャンパス④		16 月	月4回		16 木	木10回		16 土	オープンキャンパス⑤		16 火	火13回		16 金	集団面接練習		16 土	オープンキャンパス⑥				
17 月	月2回		17 水	水5回		17 土	学校見学会(保護者)		17 月	海の日		17 木			17 日			17 火	火6回		17 金	金9回		17 日			17 水	水14回		17 土	U科第2期入試 日		17 日					
18 火	火2回		18 木	木6回		18 日			18 火	火14回		18 金			18 月	敬老の日		18 水	水6回		18 土	24卒就職G(保護者)		18 月	就職個人面談 (UGJNF科)		18 木	木14回		18 日			18 月					
19 水	水2回		19 金	金5回 24卒就職G		19 月	月11回		19 水	水14回		19 土			19 火	火2回		19 木	木6回		19 日			19 火	就職個人面談 (UGJNF科)		19 金	金14回 試験問題原稿提出		19 月	卒業生成績発表		19 火	講師助手説明会				
20 木	木2回		20 土	学校見学会		20 火	火10回		20 木	木14回		20 日	↓		20 水	水2回		20 金	金6回		20 月	月9回		20 水			20 土	漢字検定		20 火	在校生成績発表		20 水	春分の日				
21 金	金2回		21 日			21 水	水10回		21 金	金14回		21 月			21 木	木2回		21 土	若幸祭前日準備		21 火	火10回		21 木			21 日			21 水	就職個人面談(W科)		21 木					
22 土	休館日		22 月	月7回		22 木	木10回		22 土	体験入学①		22 火	↑ 高 校 教 師 講 座 予 定		22 金	金2回		22 日	若幸祭当日		22 水	水10回		22 金			22 月	月14回		22 木	就職個人面談(W科)		22 金					
23 日			23 火	火6回		23 金	金10回 24卒就職G 学校見学会 漢字検定		23 日	科目A免除試験		23 水	↓ 成 績 発 表 学 校 見 学 会		23 土	秋分の日 学校見学会		23 月	若幸祭振替休日		23 木	木7回		23 土	勤労感謝の日		23 火	火14回		23 日	天皇誕生日		23 土					
24 月	月3回		24 水	水6回		24 土			24 月	月15回		24 日			24 火	若幸祭振替休日		24 金	金10回		24 日			24 水	水15回		24 土			24 日								
25 火	火3回		25 木	木7回		25 日			25 火	火15回		25 金	体験入学②		25 月	月2回		25 水	水曜振替5回		25 土	学校見学会		25 月			25 木	木15回		25 日			25 月					
26 水	水3回		26 金	金6回		26 月	月12回		26 水	水15回		26 土	学校見学会(保護者) 同意会		26 火	火3回		26 木	木7回		26 日			26 火			26 金	金15回		26 月			26 火					
27 木	木3回		27 土	学校見学会		27 火	火11回		27 木	木15回		27 日	↑ 前 期 試 験		27 水	水3回		27 金	金7回		27 月	月10回		27 水	↑		27 土	学校見学会(保護者)		27 火			27 水	プレスクール				
28 金	金3回		28 日			28 水	水11回		28 金	金15回 J検B検CBT一般		28 月			28 木	木3回		28 土	学校見学会 漢字検定		28 火	火11回		28 木	↓ 受 付 業 務 停 止		28 日			28 水	再試験発表		28 木					
29 土	昭和の日		29 月	月8回		29 木	木11回		29 土	学校見学会		29 火	再試験発表		29 金	金3回 24卒就職G		29 日			29 水	水11回		29 金			29 月	月15回		29 木			29 金					
30 日			30 火	火7回		30 金	金11回		30 日			30 水	24卒就職G		30 土	学校見学会		30 月	月6回		30 木	木11回		30 土			30 火	火15回					30 土	保護者説明会				
			31 水	水7回					31 月	追試		31 木	24卒就職G					31 火	火7回					31 日			31 水	水16回					31 日					
			5月15日(月) ~5月26日(金) 3C教育実習			6月19日(月) ~7月1日(土) 3C保育実習、 2C教育実習									※25卒性格適正試験 10月30日(月) ~11月13日(月) 2C保育実習 11月27日(月) ~12月9日(土) 2C施設実習			※台風など臨時休校が 多い時は12月3週で 対応			※24卒入社前講話 ※25卒SPI模試(2回目)			※25卒CHISA, IIT合説 ※年間講義回数 月 31回 火 31回 水 31回 木 31回 金 31回														

2学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
教育目標と検定スケジュール	6
シスコネットワーキング演習	若井 誠文 7
国家試験対策応用	松下 秀明 8
キャリアデザイン	野本 修平 9
検定対策応用A I・II	松下 秀明 10
高度ネットワーク	若井 誠文 12
CCNA対策講座	松下 秀明 13
応用ネットワーク	若井 誠文 14
検定対策応用C	松下 秀明 15
高度セキュリティ I・II	森田 秀明 16
検定対策応用B I・II	松下 秀明 18
ネットワーク構築演習 I・II	松下 秀明 20
サーバサイドプログラミング演習 I・II	小川 裕司 22
Web技術演習 I・II	花田 秀宣 24
やってみなはれ演習応用 I・II	松下 秀明 26

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居 高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

$GPA = \frac{【GP \times 履修科目の単位数】の合計}{履修科目の総単位数}$

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」
※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

- (1) 科によってメールアドレスが設定されています。
詳細は担任から説明があります。
- (2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。
- (3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

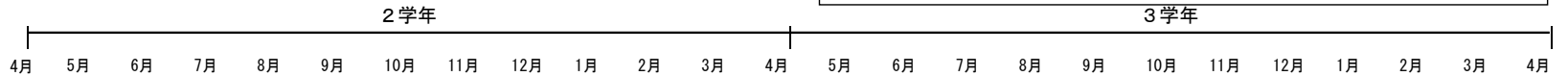
個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発技術、ネットワーク技術、サーバ構築技術の習得 ・経済産業省認定情報処理技術者試験、シスコ技術者認定試験の取得 ・システム構築に必要な論理的思考能力の向上
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省基本情報技術者試験 ・経済産業省応用情報技術者試験 ・CCNA ・経済産業省高度情報技術者試験
1年次進級条件(資格)	・ITパスポート試験
2年次進級条件(資格)	・MOS Excel
卒業条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定3級 ・ジョブパス3級

<方針>

- ①企業に役立つ高度な人材及び良き社会人としての成長を目指す
 - ②プログラミング、設計技法に加え、ネットワーク、セキュリティの知識を習得し、多様な資格取得にチャレンジする
 - ③オブジェクト指向の基礎に留まらず、Webプログラミング技術を習得する
- 1年次：
- ・アルゴリズムの授業に力を入れ、プログラミング力を高める
 - ・基本情報技術者試験の合格を目指す
- 2年次：
- ・シスコ技術者認定合格を目指し、ネットワーク技術を習得する
 - ・自力でプログラムを組める力を身に付ける
- 3年次：
- ・システム開発に取り組み、システムエンジニア・プログラマの実務に意識を高め、就職活動に備える
 - ・知識だけでなく他人と共に働く力や自ら考え行動する力の向上を図る
- 4年次：
- ・卒業研究を通じて、技術力に加え、プレゼンテーション能力を身に付ける



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1 経済産業省基本情報技術者試験	→	→																							
2 経済産業省応用情報技術者試験	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
3 経済産業省高度情報技術者試験	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
4 CCNA	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→												
5 オラクル認定Java Bronze																									→
6 漢検3級											☆				☆							☆			
7 ジョブパス3級									→	☆							☆				☆			→	
8 MOS Excel	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	☆										
9																									
10																									

科目	シスコネットワークング演習	分類	専門、必修科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト シスコ技術者認定教科書CCNA完全合格テキスト&問題集【対応試験】200-301(翔泳社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワークエンジニアもしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニアとして必要とされる知識とスキルを身に付ける。
2. 授業の目標(検定取得など)
シスコ技術者認定試験(CCNA)では、ネットワークの基礎知識と専門スキルが求められる。国家試験のネットワーク分野との親和性も非常に高いので、CCNAの合格を目指して学習して欲しい。
3. 注意点・要望
基本情報技術者試験や応用情報技術者試験のネットワーク分野と比べると、学習すべき知識とスキルが幅広い。基礎を疎かにせず、復習を重点的にして、分からないところはその日のうちに解決するように心掛けること。
4. 関連科目
ネットワーク構築演習 I

週	テーマ	内容
1	導入 ネットワークの基礎知識(1)	CCNA試験合格までのスケジュール トラフィック、スループット、帯域幅などネットワークの基礎用語の確認
2	ネットワークの基礎知識(2)	ネットワークの基礎とOSIモデル、MACアドレス、フレームの書式と役割、UTPケーブルと光ファイバケーブル、コリジョンドメインとコリジョン、CSMA/CD方式
3	ネットワークの基礎知識(3)	パケットの形式、IPアドレス、サブネット計算、静的アドレッシング、ICMP、ARP、ルーティングプロトコル、TCPとUDP、コネクション型通信、アプリケーションプロトコル
4	ネットワークデバイスの管理 ルーティングの基礎	CDP、LLDP、Telnet、パスワードリカバリ、NTP スタティック・ダイナミックルーティング、アドミニストレーティブディスタンス
5	VLSMと経路集約 インターネット接続	VLSMと経路集約 DHCP、DHCPリレーエージェント
6	アクセスリスト NATとPAT	アクセスリスト NATとPAT
7	VLANとVLAN間ルーティング	VLAN、VTP、VLAN間ルーティング、レイヤ3スイッチ
8	STP ファーストホップ冗長化	STP HSRP、VRRP、GLBP
9	OSPF	OSPF
10	Etherchannel PoE	Etherchannel PoE
11	QoS IPv6	QoS IPv6
12	WANサービスとVPN クラウドサービス	WAN回線の種類、VPN クラウドサービス
13	ネットワーク設計モデル ワイヤレスLAN	Cisco3階層モデル、Cisco2階層モデル、無線LANの特徴、無線チャネル、WLC
14	セキュリティ ネットワークの自動化とSDN	利用者に向けたセキュリティ、様々な攻撃手法、マルウェア ステートフルインスペクション機能、AAA、SDN、ネットワークの自動化
15	前期試験期間	効果測定

備考	IT業界でネットワークエンジニアを経験した教員が、その経験に基づいた講義を行う
----	---

科目	国家試験対策応用	分類	専門、必修科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	60%	0%	0%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	検定に向けた学習(15)	各自が決めた検定に向けての学習(15)
16	後期試験期間	-

備考

-

科目	キャリアデザイン	分類	教養、必修科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	50%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

- (1)実社会でのビジネスシーンを題材に、どうすれば社会が求めるビジネスパーソンになれるのかを学習する。
(2)高いレベルで物事を考えられるビジネスパーソンを目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

- (1)社会人1年目に、周囲より頭一つ抜けた実務的なビジネススキルを身に付けること。
(2)社会人2年目以降についても1年目に意識したことを継続し、よりよい人生を送れるようにすること。

3. 注意点・要望

本授業は課題提出などについてはすべてメールで実施する。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス 成績評価について
2	ビジネスメール	実践向けメールの使い方
3	目指すべくビジネスパーソン	目標を定め、自分の将来像を描写
4	仕事が早くなるツール(1)	紙とペンの有用性
5	仕事が早くなるツール(2)	コミュニケーションの前のコミュニケーション
6	仕事が早くなるツール(3)	シチュエーションを意識したコミュニケーション
7	仕事が早くなるツール(4)	作業における優先順位
8	仕事が早くなるツール(5)	議事録の作成とレビュー
9	IT業界を知る(1)	IT業界の契約方法と働き方
10	ビジネスシーンでの立ち振る舞い(1)	第一印象で評価は決まる
11	ビジネスシーンでの立ち振る舞い(2)	仕事の役割分担、責任範囲
12	IT業界を知る(2)	IT業界の企業を解説
13	モチベーションコントロール	言葉、環境による様々なコントロール方法
14	メンタルコントロール	IT業界で必要となるメンタル
15	目標設定と振り返り	現状理解と今後の目標設定
16	後期試験期間	効果測定

備考

IT業界にてプロジェクトリーダーを5年以上経験する教員が講義を行う

科目	検定対策応用A I	分類	専門、必修科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	20%	40%	0%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要な資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(1) 各自が決めた検定に向けての学習(1)
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(2) 各自が決めた検定に向けての学習(2)
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(3) 各自が決めた検定に向けての学習(3)
5	効果測定(1)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(1)
6	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(4) 各自が決めた検定に向けての学習(4)
7	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(5) 各自が決めた検定に向けての学習(5)
8	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(6) 各自が決めた検定に向けての学習(6)
9	効果測定(2)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(2)
10	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(7) 各自が決めた検定に向けての学習(7)
11	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(8) 各自が決めた検定に向けての学習(8)
12	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(9) 各自が決めた検定に向けての学習(9)
13	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(10) 各自が決めた検定に向けての学習(10)
14	効果測定(3)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(3)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	検定対策応用AⅡ	分類	専門、必修科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	40%	0%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要な資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(1) 各自が決めた検定に向けての学習(1)
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(2) 各自が決めた検定に向けての学習(2)
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(3) 各自が決めた検定に向けての学習(3)
5	効果測定(1)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(1)
6	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(4) 各自が決めた検定に向けての学習(4)
7	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(5) 各自が決めた検定に向けての学習(5)
8	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(6) 各自が決めた検定に向けての学習(6)
9	効果測定(2)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成(2)
10	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(7) 各自が決めた検定に向けての学習(7)
11	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(8) 各自が決めた検定に向けての学習(8)
12	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(9) 各自が決めた検定に向けての学習(9)
13	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(10) 各自が決めた検定に向けての学習(10)
14	面談(11) 検定に向けた学習(11)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(11) 各自が決めた検定に向けての学習(11)
15	面談(12) 検定に向けた学習(12)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(12) 各自が決めた検定に向けての学習(12)
16	後期試験期間	-

備考	-
----	---

ITエンジニア科4年制	2年
-------------	----

【後期】

科目	高度ネットワーク	分類	専門、必選科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	プリント教材 図解入門TCP/IP		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。
2. 授業の目標(検定取得など)
ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野における午後問題では、論理的思考力が求められる。解答に必要な基礎知識をベースに、筋道立てて文章を組み立てる能力を身に付ける。
3. 注意点・要望
国家試験の記述式問題は、何故その解答になるのか、「根拠」が非常に重要である。実際のエンジニアも、企画・要件定義・開発・運用・保守、どのフェーズにおいても「根拠」を求められるので、そこを意識して授業に臨むこと。
4. 関連科目
-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス ネットワークの基礎知識(1)	シラバス説明、ネットワークスペシャリスト試験概要、CCNAのおさらい
2	ネットワークの基礎知識(2)	プロトコル、OSI参照モデル、ネットワークの種類、IPアドレス、ドメイン名、ルーティング、TCP/IP
3	ネットワークの基礎知識(3)	仮想化、VDI、クラウドコンピューティング、IoT
4	LANとWAN(1)	物理層、ネットワークトポロジ、データリンク層、VLAN、無線LAN、フレームリレー
5	LANとWAN(2)	ネットワーク層、トランスポート層、VPN、アクセス回線
6	インターネットの技術(1)	IPv4、IPv6、ルーティング
7	インターネットの技術(2)	TCP、UDP、DNS、DHCP
8	インターネットの技術(3)	SMTP、POP3、IMAP4、HTTP、FTP、Telnet
9	セキュリティ(1)	暗号化、認証システム、デジタル署名
10	セキュリティ(2)	マルウェア、サイバー攻撃
11	セキュリティ(3)	ファイアウォール、DMZ、プロキシ
12	セキュリティ(4)	リモートアクセス、SSL/TLS、VPN
13	午後問題(1)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(1)
14	午後問題(2)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(2)
15	午後問題(3)	ネットワークスペシャリスト試験午後Ⅱ問題研究(3)
16	後期試験期間	-

備考	- ネットワークエンジニア、社内SE（インフラ）を経験した教員が、その経験に基づいた講義を行う。
----	--

科目	CCNA対策講座	分類	専門、必選科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト シスコ技術者認定教科書CCNA完全合格テキスト&問題集【対応試験】200-301(翔泳社)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者(もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア)として必要とされる知識と技能を修得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

シスコ技術者認定試験(CCNA)の取得、ネットワークエンジニアに求められる高度な技術知識の習得。

3. 注意点・要望

CCNA試験は、国家試験と異なり合格に必要な点数が高く、深い理解が求められます。知識をあいまいなままにしないよう復習を行って下さい。

4. 関連科目

ネットワーク構築演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	CCNA試験対策(1)	確認テスト、見極めの実施(1)
2	CCNA試験対策(2)	確認テスト、見極めの実施(2)
3	CCNA試験対策(3)	確認テスト、見極めの実施(3)
4	CCNA試験対策(4)	確認テスト、見極めの実施(4)
5	CCNA試験対策(5)	確認テスト、見極めの実施(5)
6	CCNA試験対策(6)	確認テスト、見極めの実施(6)
7	CCNA試験対策(7)	確認テスト、見極めの実施(7)
8	CCNA試験対策(8)	確認テスト、見極めの実施(8)
9	CCNA試験対策(9)	確認テスト、見極めの実施(9)
10	CCNA試験対策(10)	確認テスト、見極めの実施(10)
11	CCNA試験対策(11)	確認テスト、見極めの実施(11)
12	CCNA試験対策(12)	確認テスト、見極めの実施(12)
13	CCNA試験対策(13)	確認テスト、見極めの実施(13)
14	CCNA試験対策(14)	確認テスト、見極めの実施(14)
15	CCNA試験対策(15)	確認テスト、見極めの実施(15)
16	後期試験期間	-

備考

-

ITエンジニア科4年制	2年
-------------	----

【前期】

科目	応用ネットワーク	分類	専門、必選科目
担当	若井 誠文		
テキスト (出版社)	プリント教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。
2. 授業の目標(検定取得など)
応用情報技術者試験のネットワーク分野の問題の解答に必要な知識とスキルを身に付ける。
3. 注意点・要望
国家試験の記述式問題は、模範解答をそのまま覚えても本番では通用しない。何故その解答になるのかを自分の頭で考えて、解答を導き出すように努めること。
4. 関連科目
-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	この科目について、応用情報技術者試験概要
2	LANの技術(1)	イーサネット、VLAN
3	LANの技術(2)	STP、イーサチャネル
4	インターネット(1)	IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ
5	インターネット(2)	DHCP、DNS
6	NWを構成する装置(1)	スイッチ、ルータ
7	NWを構成する装置(2)	ファイアウォール、プロキシサーバ
8	NWを構成する装置(3)	負荷分散装置
9	仮想化	SDN、VDI
10	テレワーク環境	IPsec-VPN、ローカルブレイクアウト
11	午後問題(1)	応用情報技術者試験午後 I 問題研究(1)
12	午後問題(2)	応用情報技術者試験午後 I 問題研究(2)
13	午後問題(3)	応用情報技術者試験午後 I 問題研究(3)
14	午後問題(4)	応用情報技術者試験午後 I 問題研究(4)
15	前期試験期間	-

備考	ネットワークエンジニア、社内SE(インフラ)を経験した教員が、その経験に基づいた講義を行う
----	---

科目	検定対策応用C	分類	専門、必選科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	高度セキュリティ I	分類	専門、必選科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

- 1. 授業の概要**
 情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。
 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。
- 2. 授業の目標(検定取得など)**
 情報処理安全確保支援士の午後Ⅰ・午後Ⅱ問題に自力で取り組めるだけの基礎知識・解答力を身に着ける。
 応用情報技術者試験の午後問題(セキュリティ分野)で高得点を取れるだけの実力を身に着ける。
- 3. 注意点・要望**
 演習問題は模範解答を覚えても力がつきません。必ず自分の頭で考え、正解できなくても良いので自分の言葉で答えを書くこと(空欄・無回答を作らない)。演習問題集を範囲とした確認テスト(期末)を行います。
- 4. 関連科目**
 -

週	テーマ	内容
1	ガイダンス、ネットワークの基礎知識	この教科について、情報処理安全確保支援士の試験制度、学習方法 ポート番号、NAPT
2	情報セキュリティの概念 情報セキュリティ関連機関・法規	情報セキュリティの3要素、リスクマネジメント、BCP(事業継続計画) 情報セキュリティ関連機関、CVSS、情報処理関連法規(特に不正競争防止法)
3	脅威(1)	マルウェアの書類、攻撃ツール、C&Cサーバとコネクトバック通信、マルウェア感染 時の初動対応
4	脅威(2)	マルウェア対策ソフト、マルウェアの特徴の把握、中間者攻撃、標的型攻撃、 ドライブバイダウンロード攻撃・Dos攻撃などその他の攻撃手法
5	脆弱性対策	脆弱性診断、ゼロデイ攻撃、脆弱性修正プログラムの適用
6	暗号化(1)	共通鍵暗号と公開鍵暗号、危殆化、伝統的暗号アルゴリズム、暗号アルゴリズム、暗 号解読法、暗号アルゴリズムの安全性
7	暗号化(2)	ブロック暗号アルゴリズム、ハッシュ関数、レインボー攻撃とソルトの役割
8	無線LAN	無線LANの基礎、無線LANのセキュリティ
9	PKI (1)	PKIの構成要素、デジタル証明書のフォーマット、クライアント証明書 サーバ証明書、ドメイン認証証明書、EV証明書
10	PKI (2)	PKIの動作、デジタル署名の検証、証明書の失効、ルート認証局 コモンネームの検証、SSL/TLS、HSTS、中間確認テスト
11	認証とアクセスコントロール(1)	識別・認証・認可、アクセス権付与の原則、特権ID、アカウントの適切な管理、LDAP
12	認証とアクセスコントロール(2)	パスワードクラッキング、パスワード管理の留意点(利用者・管理者) ワンタイムパスワード、クライアント証明書による認証、RADIUS、リスクベース認証
13	認証とアクセスコントロール(3)	Kerberos認証、バイオメトリクス認証、SSOとは、SAML
14	時刻認証 VPN	時刻認証の基礎知識、デジタル署名方式、タイムアーカイビング方式、タイムスタ ンプの有効期限と長期保存、プライベートネットワークとは、NPNとは、IPSec、SSH
15	セキュリティアプライアンス 学期末確認テスト	ファイアウォール、アクセスコントロールリスト、ファイアウォールで防げない攻撃 運用管理セグメント、IDS、IPS、WAF、UTM、学期末確認テスト

備考	通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する
----	---

科目	高度セキュリティⅡ	分類	専門、必選科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

- 1. 授業の概要**
 情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。
 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。
- 2. 授業の目標(検定取得など)**
 情報処理安全確保支援士の午後Ⅰ・午後Ⅱ問題に自力で取り組めるだけの基礎知識・解答力を身に着ける。
 応用情報技術者試験の午後問題(セキュリティ分野)で高得点を取れるだけの実力を身に着ける。
- 3. 注意点・要望**
 演習問題は模範解答を覚えても力がつきません。必ず自分の頭で考え、正解できなくても良いので自分の言葉で答えを書くこと(空欄・無回答を作らない)。演習問題集を範囲とした確認テスト(期末)を行います。
- 4. 関連科目**
 -

週	テーマ	内容
1	サーバセキュリティ(1)	サーバ全般のセキュリティ、Webサーバのセキュリティ、DNSサーバのセキュリティ、DNSキャッシュポイズニング攻撃、DNSリフレクション攻撃
2	サーバセキュリティ(2)	プロキシサーバのセキュリティ、リバースプロキシ
3	電子メールのセキュリティ	電子メールの構造、電子メールエージェント、電子メールプロトコル、オープンリレー防止、送新者認証、OP25B、送信ドメイン認証、ベイジアンフィルタリング、情報漏えい防止機能
4	ICカード・クレジットカード	ICカードに対する脅威と要件、PINIによるホルダ認証、耐タンパ製、PCI DSS
5	セキュアプログラミング(1)	XSS(格納型、反射型、DOMベース)、XSSの脆弱性診断方法、サニタイジング
6	セキュアプログラミング(2)	SQLインジェクション、バッファオーバーフロー、クロスサイトリクエストフォージェリその他の攻撃手法
7	物理セキュリティ 中間確認テスト	入退室管理、ネットワークケーブルの保護 中間確認テスト
8	ログ	ログ管理の要点、ログ取得の目的、ログ管理の留意点、複数機器にまたがるログの分析、Syslog、HTTPアクセスのステータスコード
9	インシデント対応	インシデント対応手順、CSIRT、秘密鍵が危殆化した際の対応
10	シンクライアント	シンクライアントの実現方法、VDI
11	モバイル環境	モバイル端末における持ち出し管理規定、BYOD、盗難・紛失時のリスクと対応 スマートフォン
12	運用管理	構成管理、クラウドの利用、デジタルフォレンジックス、内部不正対策
13	監査 外部委託を行う際のセキュリティ	監査の種類、監査の独立性 開発を外部委託する際の留意事項、保守を外部委託する際の留意事項
14	午後問題	情報処理安全確保支援士過去問題の解答研究
15	午後問題	情報処理安全確保支援士過去問題の解答研究
16	学期末確認テスト	学期末確認テスト

備考	通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する
----	---

科目	検定対策応用B I	分類	専門、必選科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	検定対策応用BⅡ	分類	専門、必選科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	検定に向けた学習(1)	各自が決めた検定に向けての学習(1)
2	検定に向けた学習(2)	各自が決めた検定に向けての学習(2)
3	検定に向けた学習(3)	各自が決めた検定に向けての学習(3)
4	検定に向けた学習(4)	各自が決めた検定に向けての学習(4)
5	検定に向けた学習(5)	各自が決めた検定に向けての学習(5)
6	検定に向けた学習(6)	各自が決めた検定に向けての学習(6)
7	検定に向けた学習(7)	各自が決めた検定に向けての学習(7)
8	検定に向けた学習(8)	各自が決めた検定に向けての学習(8)
9	検定に向けた学習(9)	各自が決めた検定に向けての学習(9)
10	検定に向けた学習(10)	各自が決めた検定に向けての学習(10)
11	検定に向けた学習(11)	各自が決めた検定に向けての学習(11)
12	検定に向けた学習(12)	各自が決めた検定に向けての学習(12)
13	検定に向けた学習(13)	各自が決めた検定に向けての学習(13)
14	検定に向けた学習(14)	各自が決めた検定に向けての学習(14)
15	検定に向けた学習(15)	各自が決めた検定に向けての学習(15)
16	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	ネットワーク構築演習 I	分類	専門、必修科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト Cisco CCNA 完全合格テキスト&問題集 200-301		
参考資料	各授業内でプリントを配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Cisco社が提供しているシミュレータソフト(Packet Tracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

CCNAに合格できるレベルのネットワーク構築、トラブルシューティングが行える技術習得を目指す。

3. 注意点・要望

エンジニアとしての素養をつける良いタイミングだと思いますので、自分一人で「なぜ？」を繰り返しながら対応を進めること。人に聞くだけでは力つきません。

4. 関連科目

シスコネットワーク関連科目全般

週	テーマ	内容
1	ガイダンスとシミュレータソフトの紹介	授業の意義、評価方法、その他カリキュラム等の説明 シミュレータソフトの利用方法等の説明
2	NWの知識振り返り	IPアドレス計算、ルーティングに関する復習のため基礎テストを実施
3	シミュレータソフト操作方法 コマンドの習得	シミュレータソフトの操作方法を説明 NWの疎通確認、設定確認コマンドについて(ICMP、showコマンド)
4	スタティックルート	スタティックルートを利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
5	ダイナミックルート	ルーティングプロトコル(RIPv2)を利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
6	showコマンド	showコマンドからの読み取り、運用系コマンドについて(copy 等)
7	パスワード設定	ネットワーク機器上でのパスワード設定 リモート接続時の注意点等
8	デフォルトルート	デフォルトルート等を用いたNWの構築
9	アクセスリスト	アクセスリストの仕組み、設定を実施 トラブルシューティングの実施
10	NAT	NATの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
11	DHCP	DHCPサーバ、クライアントの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
12	NTP	NTPサーバ、クライアントの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
13	VLAN	VLANを利用したネットワーク構築
14	CCNA対策	CCNA対策用の実習課題の実施(総合問題)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	ネットワーク構築演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト Cisco CCNA 完全合格テキスト&問題集 200-301		
参考資料	各授業内でプリントを配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Cisco社が提供しているシミュレータソフト(PacketTracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。また、後半では各種シナリオを用意し、実際のNW提案に関するグループワークを行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

企業内ネットワーク管理者としての基礎知識をつける。また運用を意識したネットワーク構築の基礎を学ぶ。

3. 注意点・要望

CCNA取得者レベルの技術知識を要するので、しっかり前期の内容を復習しておくこと。

4. 関連科目

シスコネットワーク関連科目全般

週	テーマ	内容
1	前期講座の復習	前期演習内容の振り返りを踏まえたトラブルシューティングを実施
2	CCNA対策(1)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(VTP)
3	CCNA対策(2)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(VLAN)
4	CCNA対策(3)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(ポートセキュリティ)
5	CCNA対策(4)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチ)
6	CCNA対策(5)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(OSPF)
7	CCNA対策(6)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(EIGRP)
8	CCNA対策(7)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(拡張ACL)
9	CCNA対策(8)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(NAT)
10	CCNA対策(9)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチを利用したルーティング)
11	CCNA対策(10)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチとルータを利用したルーティング)
12	CCNA対策(11)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)
13	CCNA対策(12)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)
14	CCNA対策(13)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)
15	CCNA対策(14)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)
16	後期試験期間	-

備考

-

科目	サーバサイドプログラミング演習 I	分類	専門、必修科目
担当	小川 裕司		
テキスト (出版社)	スッキリわかるJava入門 第3版(インプレス) スッキリわかるサーブレット&JSP入門 第3版(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	40%	0%	30%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Javaプログラミングの実践的な知識を学び、アプリケーション開発の基礎を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

- (1) Javaからデータベースに接続しデータを登録、取得、更新、削除する操作する方法を学習する。
- (2) JSP/サーブレットの基礎を学習する。

3. 注意点・要望

- (1) 積み上げによる学習が大事なので、基礎をおろそかにせず、一つひとつの技術を確実に身に付けること。
- (2) 自らの手でプログラムを組み、頭だけでなく体で技術を身に付けること。

4. 関連科目

Web技術演習 I、Web技術演習 II、サーバサイドプログラミング演習 II

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション 復習	授業の目標、進め方及び評価方法 Java構文とオブジェクト指向の復習
2	例外処理(1)	例外処理の概要、利点、実装方法(1)
3	例外処理(2)	例外処理の概要、利点、実装方法(2)
4	コレクション	コレクションクラスの概要、利点、実装方法
5	課題(1)	課題作成
6	SQL復習	MySQL開発環境準備 基本的なSQLの復習
7	データベース連携(1)	JDBC、Javaとデータベースの連携方法
8	データベース連携(2)	DTOとDAO
9	課題(2)	課題作成
10	データベース連携(3)	セキュアプログラミング
11	データベース連携(4)	データベースの更新処理
12	課題(3)	課題作成
13	サーブレット	サーブレットの基礎
14	JSP	JSPの基礎
15	前期試験期間	効果測定

備考

IT業界でJavaプログラミング経験のある教員が経験に基づいた演習指導を行う

科目	サーバサイドプログラミング演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	小川 裕司		
テキスト (出版社)	スッキリわかるサーブレット&JSP入門 第3版(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	10%	50%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

- (1)サーブレット/JSPを用いたWebアプリケーションを開発する技術を身に付ける。
(2)データベースと連携したWebアプリケーションを開発できる技術を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

Webアプリケーションを開発する技術を習得し、エンジニアとしての能力向上を目指す。

3. 注意点・要望

- (1)自らの手でプログラムを組み、頭だけでなく体で技術を身につけること。
(2)2年前期までに学習したJavaの内容はしっかり復習し、理解しておくこと。

4. 関連科目

Web技術演習Ⅰ、Web技術演習Ⅱ、サーバサイドプログラミング演習Ⅰ

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション 復習	授業の目標、進め方及び評価方法 サーブレットとJSPの復習
2	フォーム、リクエストパラメータ	フォームタグ、リクエストパラメータの取得
3	MVCモデル	MVCモデルの仕組み、フォワード、リダイレクト
4	リクエストスコープ	リクエストスコープ、JavaBeans
5	課題(1)	課題の作成
6	セッションスコープ	セッションスコープ
7	課題(2)	課題の作成
8	データベース連携(1)	Webアプリで検索機能を実装する
9	データベース連携(2)	Webアプリで登録機能を実装する
10	データベース連携(3)	Webアプリで更新機能を実装する
11	データベース連携(4)	Webアプリで削除機能を実装する
12	課題(3)	課題の作成
13	最終課題(1)	チームでWebアプリを実装する(1)
14	最終課題(2)	チームでWebアプリを実装する(2)
15	最終課題(3) プレゼンテーション	振り返り、レポート作成 チームで作成したWebアプリのプレゼンテーション
16	後期試験期間	-

備考

IT業界でJavaプログラミング経験のある教員が経験に基づいた演習指導を行う

ITエンジニア科4年制	2年
-------------	----

【前期】

科目	Web技術演習 I	分類	専門、必修科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	いちばんやさしいHTML5&CSS3の教本(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要
Webの概要と構築に必要なHTML及びCSS技術を学習する。
2. 授業の目標(検定取得など)
HTML、CSSの基礎を扱うことができるようになる。 Webデザインやサイトの作成が一人で行えるようになる。
3. 注意点・要望
毎時間、新しい技術を学習するため、欠席をしないこと。
4. 関連科目
サーバサイドプログラミング演習 I

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション Webサイトの作成準備	Webサイトが表示される仕組み、URL、Webサイトに使われるファイルの種類 Webサイトのファイル・フォルダ構造、Webサイトの制作環境を整える
2	HTMLの基礎知識とマークアップ	HTMLとは、HTMLの基本構造、ディレクトリとパス
3	HTML文書の設計(1)	ヘッダーとグローバルナビゲーション
4	HTML文書の設計(2)	メインエリアとパンくずリスト
5	HTML文書の設計(3)	サイドバーとフッター
6	CSSの基礎知識とページデザイン	CSSの基礎知識、CSSの書式、ページにCSSを適用する
7	テキストの装飾(1)	見出しや本文のフォントサイズの調整、読みやすい行間、 段落のテキストをリード文だけ太字にする、表示するフォントを設定する
8	テキストの装飾(2)	テキストの行揃えを変更する、2行目以降を1文字下げる テキスト色を変更する、見出しにサブタイトルをつける
9	リンクの設定と画像の表示	テキストにリンクを設定する、テキストリンクにCSSを適用する 画像を表示する、画像にリンクをつける、画像にテキストを回り込ませる
10	ボックスと情報の整理(1)	インラインボックスとブロックボックス、箇条書きのマークアップ リストを情報の整理に使う、上手な<DIV>の使い方
11	ボックスと情報の整理(2)	CSSのボックスモデル、パディング、ボーダーの設定 2つ以上のボックスを並べる、ボックスのデザインを調整する
12	テーブル	テーブルを作成する、アクセシビリティを考慮したテーブル テーブルのデザインバリエーション
13	フォーム	フォームとデータを送受信する仕組み、さまざまなフォーム部品 標準的なフォームの例
14	ページ全体のレイアウトとナビゲーション	実践的なコーディングのために知っておきたいCSSの知識、シングルコラムレイアウト、フレックスボックスを使ったコラムレイアウト、ナビゲーションメニューの作成
15	レスポンシブWebデザイン	レスポンシブWebデザインとは、レスポンシブWebデザインのサイトを作る

備考	- システムエンジニア、情報システム管理としての経験と長年情報処理試験対策に携わってきた経験を活かして講義する
----	---

科目	Web技術演習Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	いちばんやさしいJavaScriptの教本(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	10%	50%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

動的にWebページの内容を書き換えるJavaScript技術を学習する。

2. 授業の目標(検定取得など)

JavaScriptの基礎を扱うことができるようになる。
動的なWebページの構築が一人でできるようになる。

3. 注意点・要望

毎時間、新しい技術を学習するため、欠席をしないこと。

4. 関連科目

サーバーサイドプログラミング演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション JavaScriptの特徴	プログラムとは、JavaScriptの特徴とは、制作環境を整える
2	JavaScript基礎構文(1)	プログラムの記述場所、基本構文とエラー、関数、メソッド、データ
3	JavaScript基礎構文(2)	文字列、数値と計算、ダイアログボックスの種類
4	JavaScript基礎構文(3)	変数、JavaScriptファイルの作成、コードの書き方
5	関数の基礎	関数の概要、関数の定義、デフォルト引数、関数とスコープ
6	HTML/CSSの操作方法(1)	オブジェクトの概要、windowオブジェクト、DOM操作:内容の書き換え DOM操作:要素へのアクセス
7	HTML/CSSの操作方法(2)	DOM操作:CSSの変更、要素の追加、要素の削除
8	ユーザー操作対応	イベントの概要、イベント:click、keyup、タイマー処理
9	フォトギャラリーの作成	HTML操作の実践、CSSの実践、イベント処理の実践
10	jQuery基礎(1)	jQueryの概要、jQueryの準備、jQueryの基本構文
11	jQuery基礎(2)	セレクタとjQueryオブジェクト、jQueryのイベント、jQueryの実践
12	最終課題作成(1)	授業で学習した技術を使い、課題に取り組む
13	最終課題作成(2)	授業で学習した技術を使い、課題に取り組む
14	最終課題作成(3)	授業で学習した技術を使い、課題に取り組む
15	最終課題プレゼンテーション	最終課題で作成したシステムのプレゼンテーション
16	後期試験期間	-

備考

- システムエンジニア、情報システム管理としての経験と長年情報処理試験対策に携わってきた経験を活かして講義する

科目	やってみなはれ演習応用 I	分類	教養、必修科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	やってみなはれ演習の意義	授業ガイダンス(評価方法、授業構成) 各行事に対する役割分担、責任分界点を意識した行動の指針を立てる
2	役割分担	体育祭に向けた事前準備 (それぞれの役割分担、目標設定)
3	国家試験後の目標設定	国家試験後の各自の半年間の目標、レポート作成
4	問題意識(1)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う(1)
5	問題意識(2)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う(2)
6	論点整理と解決案(1)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(1) 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う(1)
7	論点整理と解決案(2)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(2) 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う(2)
8	論点整理と解決案(3)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(3) 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う(3)
9	論理的思考(1)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(1)
10	論理的思考(2)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(2)
11	論理的思考(3)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(3)
12	論理的思考(4)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(4)
13	論理的思考(5)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(5)
14	論理的思考(6)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(6)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	やってみなはれ演習応用Ⅱ	分類	教養、必修科目
担当	松下 秀明		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	後期演習内容ガイダンス	後期の行事、並びに就職活動を意識した活動計画の立案
2	能力の実践(1)	文化祭に向けた状況整理と今後のスケジュールすり合わせ
3	能力の実践(2)	各セクションに分かれて活動
4	能力の実践(3)	各セクションに分かれて活動
5	活動内容の評価(1)	活動内容の棚卸および評価
6	能力の実践(4)	各セクションに分かれて活動
7	能力の実践(5)	最終的な各セクションのすり合わせ
8	能力の実践(6)	各セクションに分かれて活動
9	活動内容の評価(2)	活動内容の棚卸および評価
10	社会人基礎力の向上(1)	自己啓発本の選定と購入
11	社会人基礎力の向上(2)	自己啓発本の読書
12	社会人基礎力の向上(3)	自己啓発本の読書
13	社会人基礎力の向上(4)	就職活動にむけてのアクション設定
14	社会人基礎力の向上(5)	就職活動にむけてのアクション設定
15	社会人基礎力の向上(6)	3年次における各自活動計画の取り決め
16	後期試験期間	-

備考

-